

東京都衛生局公衆衛生部獣医衛生課「魚類の人工放射能検査報告」(昭和29年獣医衛生課事業報告別冊)

—41— 東京入港(3月16日~12月) 延126隻 一内高知早船籍 73隻(20隻) 一全体の58%

—42—

	検知 日	入港 日	船名	船籍	船長 氏名	船体 検知	積載魚類の量	漁撈位置	検知(産産)量	処分方法	摘 要
○	5	6, 7	6, 5	加1 万寿丸	高知 山下保男 仁尾進	(一)	まぐろ類 5.900	N 26°25'~27°30' E 167°40'~170°20'	さばた 1本 11×	研究材料	国立衛生試験所
	6	6, 8	6, 7	加2 金功丸	三崎 上倉幸七 奥津政五郎	(一)	23.000	N 10°54' W 167°40'~176°40'	さばた 1本 3×	全上	全上
	7	6, 25	6, 24	日東丸	宮古 山崎鉄男 菊地長門	(一)	2.500	N 33° E 162	さば 4本 60×	全上	全上
	小計			7			52400 ^x		45本 544×3		
○	1	7, 5	7, 2	加1 さつま丸	鹿児島 石井保 鹿児島操子	(一)	まぐろ類 35.000	N 11 E 170	さばた 4本 31×7	研究材料	国立衛生試験所
	2	7, 8	7, 7	加2 十勝丸	宮古 眞岩増平 沢田仙松	(一)	7.500	N 4 E 143	さばた 2本 19×5	全上	東海区水研
	3	7, 13	7, 11	加3 神崎丸	名古屋 山口昌美 村瀬徳三郎	(一)	2.500	N 1°30' E 162	さばた 6本 67×	全上	国立衛生試験所
	4	7, 15	7, 13	加1 福生丸	三崎 中川政男 橋島恒一	(一)	30.000	N 10 W 170	5本 36×	全上	全上
○	5	7, 15	7, 14	みさき丸	室戸岬 柳原一博 堺能一郎	(一)	5.000	N 6~8 E 138~144	3本 27×5	全上	全上
○	6	7, 19	7, 17	大正丸	安田町 中村自世 引松金吉	(一)	6.500	N 4 E 160~143	3本 29×3	全上	全上
	7	7, 20	7, 19	加5 油津丸	油津 杉本幹雄 川上孝九郎	(一)	12.000	N 3°20' E 148	22本 173×2	全上	全上
小計			7				109.500 ^x		45本 389×2		
○	1	8, 5	8, 2	加3 住吉丸	三崎 小川長彦 西宮秀雄	(一)	まぐろ類 18.000 ^x	N 3° E 180°	くさひ 1本 17×8	研究材料	国立衛生研究所
	2	8, 9	8, 8	自備丸	栄松 松本進 松本正敏	(一)	8.000	N 3° E 150°	さばた 2本 16×7	全上	全上
	3	8, 16	8, 14	加宝丸	室戸岬 高見功 松本梅竹	(一)	10.000	N 8° E 150°	さばた他 168本 1679×6	海洋投棄	3.15 東京出港
	4	8, 16	8, 15	加3 宝幸丸	東京 玄田初治 深尾清吉	(一)	6.000	N 0° E 138°	さばた他 3本 10×1	研究材料	国立衛生研究所
○	5	8, 18	8, 17	みめ丸	室戸 橋岡玄之 久保田閑馬	(一)	7.500	N 5~7° E 140°~145°	さばた他 30本 338×7	全上	全上
○	6	8, 21	8, 20	加5 若米丸	室戸 堀日出男 中野時馬	(一)	6.000	N 6~9° E 151°~153°	121本 1944×2	海洋投棄	8.21 出港
	7	8, 24	8, 22	相洋丸	三崎 木村丸助 鈴木徳次郎	(一)	9.000	N 3~8° E 152~154	36本 420×4	全上	8.25 出港
	8	8, 24	8, 23	加30 白米丸	東京 吉川鶴殿 青木幹之	(一)	4.500	N 39~39°20' E 162~165	おしき 5本 57×6	全上	全上
○	9	8, 25	8, 23	加11 加取丸	室戸岬 坂本倉一 釣井高明	(一)	9.000	N 5° E 157°	さばた他 218本 3007×3	全上	全上

1-2 宮城県衛生部「放射能対策に関する報告」(55. 3)

5. 被爆漁船, 乗組員の検知状況

第五明神丸

船 籍 宮城県 鮎川町

総 屯 数 129 屯

船 主 阿 部 薫

船 長 阿 部 莊 作

乗 組 員 船長以下 24 名

漁 獲 量 15,000 貫

航行経緯 昭和29年1月28日石巻港出港

[215ページの図]

昭和29年3月1日 N 9° 28'

—E 177°19'

3月10日 N 10° 17'

—E 175°48'

3月11日 N 12° 13'

—E 173°38'

3月12日 N 13° 34'

—E 178°25'

3月13日 N 14° 34'

—E 163°26'

3月14日 N 15° 21'

—E 163°26'

3月15日 N 17° 56'

—E 161°40'

3月16日 N 19°58'

—E 159°13'

3月17日 N 20°32'

—E 156°34'

3月26日 塩釜港入港

放射能検査結果

(1) 船体の放射能検査結果

イ. 船 左 舷 甲 板 72 カウント

ロ. 船 舳 68 "

ハ. 船右舷甲板 73 "

ニ. 前甲板ブリッジ 68 "

ホ. 船 長 室 62 "

ヘ. マ ス ト 下 部 100 "

ト. 後 部 甲 板 124 "

チ. 延 縄 漁 具 1,350~1,700 "

(2) 衣類の放射能検査

イ. 被服 1 例 50~100 カウント

ロ. 帽子 1 例 70~100 "

(3) 乗組員の健康検査 [216~7ページの表]

第十宝成丸

船 籍 宮城県気仙沼港

総 屯 数 240 屯

船 主 鈴木栄松

船 長 鈴木菊雄

乗 組 員 船長以下 34 名

漁 獲 量 12,500 貫

航行経緯 昭和29年2月6日 唐桑村鮎立出

港 [218ページの表]

3月1日 N 10°45'

—W 171°17'

3月26日 N 22°45'

—E 169°05'

4月2日 東京築地入港

水揚げ完了

4月9日 宮城県気仙沼

帰港

放射能検査結果

(1) 船体の放射能検査結果

イ. 甲 板 50~90カウント

ロ. 延 縄 800カウント

ハ. 魚槽カバー 800~1,100カウント

ニ. 船 室 120カウント

ホ. 船 長 室 50~85カウント

ヘ. 操 舵 室 20~30カウント

(2) 衣類の放射能検査

イ. 船員バンド 800カウント 1 例

ロ. 腕 抜 き 1,000カウント 2 例

その他カウント数の高い衣類は築地より

帰港の途中海洋投棄してあったので検査

不能である。

(3) 第十宝成丸乗組員の健康検査 [219ページの表]

第一金比羅丸

船 籍 宮城県鮎川港

総 屯 数 139 屯

船 主 辺見安之助

船 長 鈴木伊勢夫

乗 組 員 船長以下25名

漁 獲 量 2,000 貫

航行経緯 昭和29年3月5日 館山出港 [220

ページの図]

3月22日 }

4月5日 } 操業期間

E 174°37'—N 9°53'

E 175°35'—N 8°56'

4月19日 三 崎 入 港

4月22日 塩釜港入港

放射能検査結果

(1) 船体の放射能検査結果

前甲板マスト梯子 1,500~2,500カウント

前甲板ウインチ 300~400カウント

航海ランプ 1,000~1,600カウント

後部マスト 900~1,000カウント

魚艙ハッチ 100~200カウント

ロープ 1,300~1,700カウント

煙 突 1,000カウント

船長室 700~800カウント

前甲板下船員室 600~800カウント

(2) 衣類の放射能検査

帽 子 30カウント 1 例

(3) 水揚げ漁獲物の放射能検査

2,000貫中下記放射能のあるびん長鮪9

本を検出, 土中に没却した。

7 本 100~150カウント

2 本 300カウント

(4) 乗組員の健康検査 [221ページの表]

被害

「ビキニ事件」三浦の記録

昭和二十九年に発生したビキニ事件で被害を受けたマグロ船は、三月十六日から十二月三十一日まで、厚生省が指定した塩釜、東京、三崎、清水、焼津の指定五港に限っても、三八四隻が廃棄処分を受け、廃棄した量は約三三三トンといわれている。

三崎でも三月十七日から検査が始まった。検査の結果、放射能が検出されマグロの廃棄処分を受けた漁船は一五〇隻を越えた。だが、三崎港で検査を受けて放射能が検知された漁船、あるいはマグロが廃棄処分となった漁船の船名は三分の一近くが明確にわかっていない。また船名がわかっていても、汚染された数量や、廃棄数量、廃棄方法、操業海域などがわからない船も多い。したがって、船名の場合には、船名のみを記載した。入手し得た資料から拾い集めたのが次の資料である。

(※印は、三崎での水揚げ記録はないが、三崎港所属の船は三崎港で水揚げした後、東京に回航しているの、東京都衛生局の資料を参考としてあげたものである。従って入港日は東京港に入港した日である。●印は、廃棄場所が海洋か地中か不明のもの)

三崎港で放射能を検出された漁船一覧(3月17日～12月10日)

入港日	船名	廃棄尾数	廃棄数量(貫)	廃棄方法	操業海域
3	14	10 住吉丸	検出数微量	廃棄せず	サング海海域
3	14	大宮丸	検出数微量	廃棄せず	サング海海域
3	15	俊洋丸	検出数微量	廃棄せず	サング海海域
3	16	13 海幸丸	検出数微量	廃棄せず	サング海海域
3	16	13 丸高丸	検出数微量	廃棄せず	サング海海域
3	17	5 幸進丸	検出数微量	廃棄せず	サング海海域
3	17	8 福吉丸	検出数微量	廃棄せず	サング海海域
3	17	11 丸高丸	検出数微量	廃棄せず	サング海海域
3	19	※ 8 住吉丸	検出数微量	廃棄せず	サング海海域
3	26	13 光栄丸	全量	海洋投棄	ソロモンはるか東海域
4	14	瑞洋丸	九〇尾	地下埋没	ミッドウェイ南沖
4	14	12 宝幸丸	二尾	地下埋没	ビキニ東方危険区域外
4	14	14 尾形海幸丸	二尾	地下埋没	マーシャル海域
4	16	2 幸陽丸	一八	地下埋没	ニューギニア海域
4	18	6 住吉丸	七〇	処分せず	クリスマス島西海域
4	19	11 福生丸	一二五	地下埋没	フィジー北沖
4	21	12 海王丸	三〇	地下埋没	南シナ海
4	22	7 明神丸	一七六尾	海洋投棄	ビキニ東方危険区域付近

一九五四年・焼津港の月別入港の放射能汚染漁獲物廃棄漁船

水産と安全漁業丸 枝村三郎

(『焼津市史研究』(二〇〇五年)第六号より転載)

月・日	船名	トン数	県別	母港	出航日	廃棄主魚・本数	キロ
3・16	第五福竜丸	140	静岡	焼津	2・14	メバチ・カジキ	(約8トン)
4・13	第二吉祥丸	155	静岡	焼津	3・6	キハダ	42
5・24	第六瑞宝丸	53	大阪	大阪	5・4	キハダ	156
5・26	第二大勝丸	61	和歌山	太地	5・5	カジキ	213
5・28	三滝丸	50	三重	四日市	5・8	カジキ・サワラ	153
5・29	第五松栄丸	68	鹿児島	島平	5・5	シイラ	99
5・30	第八南海丸	99	鹿児島	島平	5・1	シイラ・サワラ	697
5・31	竜歳(才)丸	71	和歌山	勝浦		カジキ	699
6・1	第一五長久丸	69	鹿児島	山川	5・1	シイラ	40
6・1	羽島丸	64	鹿児島	羽島	5・1	シイラ	49
6・2	第五進栄丸	36	高知	室戸	5・4	カジキ・シイラ	291
6・5	豊生丸	70	和歌山	勝浦	5・1	カジキ・サワラ	1293
6・5	第八徳栄丸	21	静岡	太地	5・1	カジキ・サワラ	96
6・5	第三妙成丸	47	和歌山		5・1	カジキ・サワラ	102
6・6	第三運祐丸	50	和歌山	勝浦	5・1	カジキ・サワラ	191
6・8	手子后丸	50	和歌山	勝浦	5・1	カジキ・サワラ	1393

6・8	第五南進丸	43	鹿児島	串木野	5・1	カジキ・サワラ	263
6・9	第五元光丸	38	和歌山		5・1	カジキ・サワラ	451
6・10	第五瑞宝丸	54	大阪	大阪	5・1	カジキ・サワラ	438
6・11	第五恵潮丸	44	徳島	地岐	5・1	カジキ・サワラ	614
6・12	第一成福丸	32	高知	室戸	5・1	カジキ・サワラ	497
6・13	第二錦載丸	39	和歌山	勝浦	5・1	カジキ・サワラ	849
6・13	第三豊丸	32	高知	室戸		カジキ・サワラ	121
6・13	第五桂丸	44	和歌山	串本	5・2	キハダ・カジキ	799
6・14	開清丸	61	和歌山	勝浦	5・2	カジキ・サワラ	244
6・15	宮浦丸	58	和歌山	勝浦	5・2	カジキ・サワラ	663
6・16	第七豊丸	41	徳島	室戸		カジキ・サワラ	100
6・18	第二明神丸	32	高知	焼津	5・1	カジキ・シイラ	274
6・19	第六瑞宝丸	54	大阪	大阪	5・3	サワラ	313
6・21	高取丸	51	和歌山	勝浦	5・3	カジキ・サワラ	208
6・22	三滝丸	50	三重	四日市	6・1	カジキ・サワラ	504
6・22	第三松栄丸	32	鹿児島	島平	6・1	カジキ	357
6・25	第一三蓬萊丸	20	和歌山	串本	6・7	サワラ	104
6・28	天祐丸	80	宮城	石巻	5・1	キハダ	228
7・6	第五元光丸	38	和歌山		6・1	カジキ・サワラ	383